

報道関係各位

2018年3月10日
株式会社日本レースプロモーション

SUPER FORMULA 次期車両『SF19』

今後の開発スケジュールについて

2019年の全日本スーパーフォーミュラ選手権に導入される新型車両『SF19』は、現在順調に開発を進めています。つきましては、その現況及び今後の開発スケジュールについて、ご案内申し上げます。

昨年10月の『SF19』導入発表からこれまで、設計・製作担当のダラーラアウトモビリティ社(伊)により、風洞空力テストを重ねてまいりましたが、先週無事終了致しました。開発について、同社のSF19開発担当者ファビオ・グラッパ(プログラムマネージャー)からのレポートです。

「The development of the new Super Formula car for the 2019 season (car code SF19) is proceeding as planned, with the production of the first chassis in progress in the Dallara production plant. The new car represents an important step forward compared to the previous generation, thanks to a completely new design, aerodynamics and the compliance with the more stringent safety standards requested by motorsport. The entire development was focused on the weight control, main feature of the Super Formula. The use of innovative materials and construction technologies have allowed the control of weight increase, despite the rules changes, with the results of keeping the new SF19 one of the lightest single seat car in the world in his engine power range. The aerodynamics results are showing promising data in terms of downforce, drag, aero balance, cooling and overtaking capabilities. This will lead to a significant step forward in terms of performance, thanks also to the adoption of powerful and efficient 4 turbo cylinder engines developed by Toyota and Honda and the Yokohama tires. From a vehicle dynamic point of view the car will have a shorten wheelbase with a better agility, responsiveness and a more challenging driving experience. The first prototype assembly will start in May 2018 in order to have it ready for the first track test at the beginning of July 2018.

2019年度に向けた新型 Super Formula カーの開発は順調に進んでおり、Dallara の製造工場では最初のシャシー(モノコック)の製造が進行中です。デザインや空力を全面的に新たなものとし、モータースポーツが求めるより厳格な安全基準に準拠させた結果、新車は前の世代と比べ重要な進歩を遂げています。

全体的な開発は、Super Formula の主たる特徴である重量コントロールを中心に行なわれました。革新的な素材、革新的な製造テクノロジーを使用することで、ルール変更にもかかわらず重量をコントロールすることが可能となりました。その結果 SF19 はこれまで同様、同レベルのエンジンパワーを有するシングルシーターカーの中で世界的に最も軽量の車両の一つとなっています。ダウンフォース、ドラッグ、空力バランス、冷却力、オーバーテイク機能といった空力面では、大いに期待できるデータが得られています。

Toyota、Honda 両社がそれぞれ開発したパワフルで効率的なターボ式4気筒エンジンならびにヨコハマタイヤが採用されることも相まって、性能面では大幅な進歩を遂げます。

車両ダイナミクスの観点では、ホイールベースが短くなって、これまで以上の敏捷性、反応性が発揮され、よりチャレンジングなドライビング体験をもたらしてくれるでしょう。

2018年7月初頭に行なわれる最初の走行テストに向け、2018年5月にはプロトタイプを組み付けが始まります。」

●開発スケジュール(予定)

2017年11月

～2018年3月：風洞空力テスト

2018年3月：モノコック、パーツ製造開始

6月：プロトタイプ完成

7月：プロトタイプ走行テスト(シェイクダウン・富士スピードウェイ)

10月：最終仕様の確定・量産開始

2019年1月：各チームへのデリバリー

●風洞空力テスト



以上